

研究テーマ：学習意欲を醸成させるための指導の工夫

所属 須崎工業高等学校

氏名 妙木 誠

R G SH5

1 研究の背景

本校は実業高校ということもあって、英語に対して苦手意識を持ち基礎学力不足のまま入学してくる生徒の割合が高い。そのため、学習意欲が欠如し、中には英語学習に対して拒否反応を示す生徒も見受けられるのが実態である。具体的には授業中に居眠りや私語をしたり、時には携帯電話をいじったり、漫画を読んだりすることもある。したがって、基礎学力向上を目指すためにも、学習意欲を醸成させる指導の工夫が必要不可欠と思い、上記の研究テーマを設定した。

2 リサーチクエスション

「学習意欲が欠如している生徒たちに意欲を醸成していくにはどうすればよいか」

3 予備調査

〔予備調査 1〕 授業観察の結果（指導案は別紙）

3 年生の化学科(18 名)において授業を行ったものである。ALT との共同授業であり、また、Warm-up で簡単なゲームをやったこともあり、割に意欲的に取り組んでくれたように思う。展開の部分では、できるだけ一人ひとりの生徒に発言の機会を設けたこともあり、授業を共に作り上げていく取り組みができたように思う。ただし、やはり一部の生徒は授業内容に対する理解が伴っていないのか、ゲームが終わった後は、机に伏せたままやる気を見せられない時があったのが気になっている。生徒の体調や気分、また、どこでつまづいているかについてももっとよく把握するように努め、それに対して適切に対処していく必要がある。

〔予備調査 2〕 英語力を示すデータ（詳細は別紙）

- (1) 6 / 12 実施 自己紹介に関する Interview Test(20 点満点)の平均点—15.8 点
自己紹介(10 点満点)の平均点—8.3 点
Q & A (10 点満点)の平均点—7.6 点
- (2) 期末テストの平均点—61.9 点

〔予備調査 3〕 アンケートの結果（4 月当初に実施したもの 詳細は別紙）

全体的に見て英語が苦手な生徒が多いのわかる。また、概ね意欲や向上心が欠如していることがうかがえる。しかし、楽しくてわかりやすい授業を期待している側面も見受けられるので、この点を大切にして工夫することを基本にし、授業改善に努め、生徒の英語に対する興味と関心を喚起し、意欲を醸成することに取り組んでいきたい。その結果として、少しでも苦手意識を克服し、英語力の向上につなげていきたい。

4 仮説の設定

〔仮説 1〕 ホーム主任と密に連携をとったり、授業開始前や開始後、あるいは、休み時間等に生徒とよく会話を交わしたりして、生徒の気分や体調、また、つまづきの原因を把握するように努めた上で授業を進めていけば、生徒に対しての接し方が改善されていくのではないかと。

〔仮説 2〕 Warm-up でゲームをしたり、あるいは、できるだけ生徒たちのリクエストによる英語の歌を聞かせたりすると、その後の授業内容に取り組む意欲につながるのではないかと。

[仮説 3] Warm-up 後の授業において、生徒の実態に応じて、教科書の内容の理解促進を図るプリントや補助教材を作成すれば、少しでも積極的に授業に臨んでくれるのではないかと。

5 計画の実践

仮説 1 について 書いている通りである。

仮説 2 について ゲーム集から、生徒の学力に応じたもので興味や関心がありそうなものを選んで実施する。歌については書いている通りである。レンタルショップで借りてきたり、生徒に持参してきてもらって聞かせるようにする。なお、この際にはできるだけ英語の歌詞を印刷して配布するように努める。

仮説 3 について 時には教科書の内容を理解したり深めたりする目的で、主に記入できるワークシート形式のものを準備する。

6 実践の結果

概ね一定の成果を収めたように思われる。仮説 1 については、まだまだ十分とはいえないが、ホーム主任や本人を中心にして生徒の状況把握に努めた上で、授業を進めてきたことは良かったように思われる。また、仮説 2 については、できるだけ生徒の興味関心のある曲を流したり、ゲームを実施したりするように努めてきたので、授業に対して意識を向けさせると同時に、動機付けをするのに役立ったように見受けられた。仮説 3 については、教科書を使つての授業の時に、1 時間ごとに記入できるプリントを用意し、その時間の終わりに提出させ点検をし、定期試験前にまとめて返却するという方法で行った。そのため授業に以前よりも積極的に参加するという生徒が増えたとともに、欠席生徒に対してのフォロー内容も明確になってそれが実施できたことも成果があったと思われる。

7 結果の検証

生徒の授業態度や提出されたプリントを見てみると、前向きに取り組む生徒が増えてきたように思われる。このことは、定期試験の結果にも表れている。たとえば、あるクラスの 2 学期の中間試験と期末試験の平均点を示すと、中間試験—63.6 点、期末試験—85.8 点であった。またあるクラスは、中間試験—70.8 点、期末試験—70.3 点であった。いずれのクラスも 70 点前後と割に高いレベルを維持してくれている。このようなことから、この研修を通じて行ってきた授業改善の取り組みは一定の成果を収めていることがうかがえる。

8 成果と今後の課題

生徒の気分や体調等の把握についてはまだまだ十分ではないが、大切なことなので継続して取り組みをしていく必要があると痛感している。なぜなら、これをおろそかにして授業中の態度だけで注意をすると反感をもたれるだけではなくて、気分や体調が改善された時でも、授業内容を理解しようとしなくなることもあるからである。これではまさに意欲の減退につながるの要注意である。また、授業に対するアンケートをこまめに実施し、分析することも大切だと思われる。

Warm-up でのゲームや英語の歌の実施については、生徒の意欲醸成に一定の成果を収めているように思われるので、今後も継続していきたいと考えている。また、プリントや副教材の作成については、できる限り準備して配布に努めているが、生徒の実態や興味関心に応じたものになるようにその内容にはいっそうの工夫と配慮が必要である。

生徒の「意欲の醸成」は、現在の勤務校に限らず、英語教員を続けていく上での永遠の課題であるように感じられる。よって、このテーマで研修を深めて指導力を向上させ授業を改善していくことは、大変意義深いものであるように思う。